

製鉄病院がん診療センター

インテリア設計完成

患者が安心できる
やさしいデザイン

製鉄記念室蘭病院（松木高雪病院長）が建設中の「がん診療センター」（今年8月稼働予定）で、室蘭工業大学（佐藤一彦学長）が取り組んでいる同センターの「インテリア設計」が完成した。病院らしい清潔感と存在感を保ちながらも自然の良さを演出。「患者が安心できるやさしい空間」をテーマにしたデザインになっている。（松岡秀宜）



室工大が取り組んだ「がん診療センター」のインテリア設計

医工連携、室工大が協力

同病院と同大は、医工連携に基づいた各種の共同研究を行っており、同センターの建設についても同大が設計段階から協力。住宅の空間構成や居住環境の外部空間の働きなどを研究する真境名達哉講師（建築工学）が、昨秋からインテリア設計に取り組んでいた。

がん患者の治療施設となる同センターは患者側からみると、長期間の利用も想定され、コンセプトとしては「治療オンリーの暗いイメージを払拭した」（真境名講師）という。空きスペースを活用した中庭には、木々が植え込まれた緑地やベンチなども設けられる。

また、2階には木目の自然な雰囲気の特長のカフェや患者向けサロンなども設置、幅広い層がリラックスできる空間も創出した。放射線治療室の新設と外来化学療法センターの拡充などがメインとなる同センターは、今年8月稼働の予定。放射線治療と化学療法を集約した中核施設の建設は現在、「全体の6割ほどの進捗もラックスできる空間も創